

新宮町の景観計画試案

九州産業大学 学生会員 ○重富 佑哉
九州産業大学 正会員 山下 三平

1. はじめに

福岡県糟屋群新宮町は現在、都市計画マスタープラン¹⁾はあるものの景観計画は策定していない。一方、新宮町に接している福岡市と古賀市はすでに景観計画を施行している。広域景観の整合性を図るために、新宮町に早急な景観計画の策定が望まれる。

この地域の広域景観を規定する要素は立花山と、松林が続き玄界灘を臨む海岸線である。また、地域内に残る唐津街道と沿道事物も重要である。

これらの点を踏まえ、本研究では新宮町の法定景観計画の策定に先立ち、景観計画の試案に取り組む。

2. 研究方法

福岡市と古賀市の景観計画²⁾³⁾を参照して整合を図り、新宮町の現地調査によって得た情報と上位計画に沿うように内容を検討する。

景観分類は新宮町を面・線・点の3視点で見つめ、地域ごとの特色を調べることで景観分類を行い、マップに表記する。それと併せて地理的特徴や自然・歴史的景観要素を調査し、重層的に表記することにより、新宮町のもつ魅力と改善すべき課題の抽出を行う。

3. 現状と景観計画の前提

新宮町は総面積 18.91km²、東西約 8.5km、南北約 5.7km で東西に長く南北に幅が狭い地形である。南には福岡市東区、北側に古賀市、南東側には久山町にそれぞれ接している。図1に新宮町の位置を示す。

新宮町の人口はH29年では32,542人である。H7～12年は人口増加率が県下第1位になったことがあり、現在も依然人口の増加が続いている。だが現在、東西地域の間で発展の格差が生じている。東部地域への人々の誘致を促すこと、そのために景観の保全を行うことが、東部地域の発展に必要と考えられる。

上位計画である第5次総合計画の基本目標は「人が輝き快適に暮らせる 元気なまち 新宮」である。また、まちづくり基本理念は「人に優しいまちづくり」「環境共生のまちづくり」「協働で拓くまちづくり」である。これらを踏まえ、景観計画の策定を試みる。



図1 新宮町の位置

4. 景観計画策定内容

景観計画の内容として重要なことは、地域格差の緩和と、そのための東西地域間の人的交流の促進、さらには東部地域への、町外からの来訪者の増加である。新宮町が単なる福岡市のベッドタウンに留まるのではなく、さらに特徴的に発展するためには、町のもつ豊かな自然、歴史文化を活かした景観まちづくりをする必要がある。それには、1) バランス良い市街地開発、2) 東部地域間交流の向上、の2点が基本とならなければならない。そこで、景観計画の基本的目標と3つの景観形成方針の設定を、次のように試みた。

(1) 目標

自然・文化・歴史を活かし、
地域間交流の豊かで魅力あふれる景観づくり

(2) 景観形成方針

- ① ベッドタウンとしての発達ではなく、地域内外の交流の場を増やし、若者や外国人にも魅力的で便利な施設を導入する。
- ② 交通整備を見直し、東西の交通を改善することで町の東側の地域と西側の格差を減らし、地域交流の改善とさらなる発展と人口増加を目指す。
- ③ 新宮にある自然（立花山、楯の松原など）、歴史文化（唐津街道や立花口古民家周辺地区など）の保護を推奨する。また自然と商業施設の融合を目指し、自然と文化そして人々の活気にあふれた街づくりを目指す。

(3) 景観形成分類

新宮町の各地域の特色を調査した結果、住宅街が広がっている“まちなみ景観”、立花山などの自然が多く存在する“やまなみ景観”、玄界灘に面した海岸地域の

“うみ景観”、田畑などが広がる“田園景観”、国道沿いに立ち並び商業施設が集中している“商業景観”、そして国道 495 号線の北部や九州自動車道付近に工場集中地帯の“工業景観”の6つに分類できる。

表 1 と図 2 に各地域の施策案の内容を示す。

表 1 景観分類策定案

景観分類	施策内容
まちなみ景観	新宮町の住宅街が最も集中した地域であり、景観が整えられている地域が広がっている。今後、方針はコンパクトなまちなみを指すため、大規模な開発は規制をかける。また、公園が少ないので、町民が集まり憩える場所を造る。
やまなみ景観	自然が多く存在し、季節の風景の移り変わりを楽しむことができる。立花口は古民家や寺院が多く存在する。自然保護のほか、古民家再生が中心として取り組む。
うみ景観	楯の松原、相島などの自然が存在し、観光客も多い。西鉄貝塚線の終点である新宮駅があるが、利用者の減少が問題である。その他、自然保護、観光としての発達が求められる。
田園景観	まちなみ景観、やまなみ景観の間に位置する田園景観は田畑が多いほか、唐津街道をはじめとした文化物が多く存在している。文化物の保護を重視した規制をかけた開発が求められる。
商業景観	国道沿いに立ち並び新宮町の商業施設が集中したこの地域は新宮町の生活基盤である。景観を壊すことの無いコンパクトかつ、バランスの取れた開発を行うための高さ制限や開発範囲の制限をかける。
工業景観	国道495号線北部と九州自動車道に沿って広がる工場地帯。道路からの景観改善や、緑化の推進、開発行為の制限をかけて地域改善を図る。

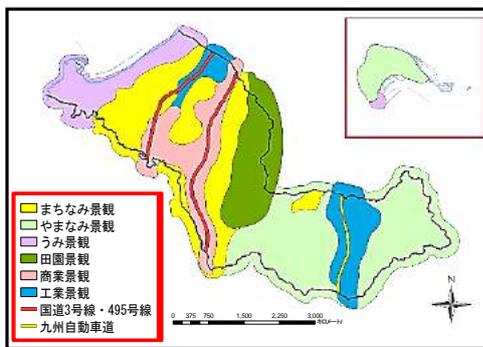


図 2 景観分類。GISをもとに作成

(4) 景観重点地区

上位計画は自然との共存と歴史文化などの地域特性を活かしたまちづくりを掲げている。そのため新宮町の象徴となり、とくに重要な自然地域と歴史文化地域の保護が必要と考え、次の6地区を指定した。この地区では他の地区とは別に、高さ規制や広告表示規制、緑化強化推進などの独自の規制を設け、景観の保護や改善を図る。独自の制限を設けることで、新宮町の重要景観が保護されるほか、観光名所としての魅力を高め、新宮町のさらなる発展を見込むことができる。

表 2 と図 3 に景観重点地区範囲と選定理由を示す。

表 2 景観重点地区策定案

選定地区	選定理由
①相島	玄界灘に浮かび、自然や歴史文化的遺産が多く残る観光名所。
②立花山	新宮町の象徴の山。立花城跡、大楠など自然と歴史が多く残る。近接市からの眺望景観の保全も重要。
③楯の松原	古賀市から海岸に広がる松原であり、国定公園に指定されている。近年、松の減少により松原の復旧を求められる。
④唐津街道	江戸時代に参勤交代などで使用された街道。秀吉ゆかりの太閤水が存在する。
⑤横大路家千年家	最澄にまつわる伝説が残る九州最古の建築物。国指定重要文化財に登録。
⑥立花口古民家周辺地域	立花口に立ち並び古民家。最澄ゆかりの独鈷寺など多くの寺院が存在。近年は空き家が問題である。

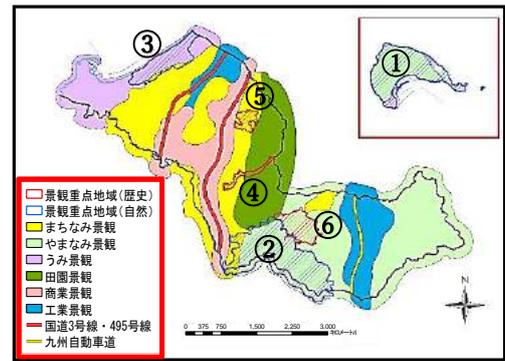


図 3 景観重点地区。GISをもとに作成

(5) 広域景観整備

立花山・唐津街道・海岸線の広域景観は、他の市域の景観とともに構成されるため、整合の取れた規制や制限を設け、共同の景観保全の計画を図ることが必要である。

とくに立花山の眺望の確保、唐津街道沿いの宿場や太閤由来の史跡の連携保全、白浜青松の保全計画の連携が不可欠である。

5. おわりに

本研究では上位計画の内容を基準とし、近接市との整合・バランスの取れた開発、景観の保全を目標に計画を立案した。

新宮町は近年の全国的な動向であるコンパクトなまちづくりを目指している。国道沿いは、これまでのところ景観に関する規制がないため、典型的な郊外幹線道路沿いの景観一大きく目立つ看板、商業施設の乱立が続く。これを縦断する都市計画道路の計画が実施されれば、東部地域の自然景観は大きく変化するだろう。

この点を踏まえて、本研究では立花口区、的野区などの東部地域の景観保全や、工業景観の規制による景観改善を取り入れ、東部地区への人々の誘致と健全な開発の目標を立て試案を示した。

本研究では町民の対象の意識調査ができなかった。今後は直接町民の声を聴き、その結果を景観計画の内容に反映させることが必要である。

謝辞

本研究において協力をしてくださった皆様に感謝を申し上げます。本研究は新宮町からの受託研究「東部地域における地域資源活用調査」(代表：山下三平)によった。

参考文献

- 1) 新宮町都市計画マスタープラン-新宮町ホームページ：
<https://www.town.shingu.fukuoka.jp>
- 2) 古賀市景観計画-古賀市役所：
<https://www.town.shingu.fukuoka.jp>
- 3) 福岡市 景観法に基づく届出：
<https://www.city.fukuoka.lg.jp>